

博物館施設としての「民家」の保存・活用実態とその課題

—アンケート調査と旧和田家住宅の活用を通して—

平石真由^{*1)} 小沢朝江^{*2)}

1 はじめに

博物館は、考古資料・美術品などを収集・保管・展示する施設である。その一部として民家・商家などの住宅建築を保存・展示する例が存在し、一般公開、年中行事の継承、小学校の校外学習などに活用されている。東海大学建築学科小沢研究室では、東日本地域の博物館・資料館が所有する民家・洋館等を対象にアンケート調査を実施し、保存経緯や活用実態の把握を試みた。

同時に、茅ヶ崎市景観みどり課・同市教育委員会社会教育課が企画した令和2年度事業「下寺尾・堤周辺地区まち起こし事業」の一環として、旧和田家住宅を用いた市立小出小学校の総合学習に協力した。令和4年度には、旧和田家住宅の隣接地に茅ヶ崎市歴史文化交流館が開館予定であり、建物の価値や特徴を活かし、かつ館と一体となった活用が今後望まれる(図1)。

本稿では、博物館が所有する住宅建築の保存・活用実態をアンケート調査から報告するとともに、旧和田家住宅の活用と合わせ、博物館施設としての民家の保存意義と今後の課題を考察する。

2 博物館が所有する住宅建築の事例と傾向

(1) 住宅建築の概要

東日本地域について、全国博物館協会・全国歴史民



図1 旧和田家住宅 外観

俗系博物館協会に加盟し、国・地方自治体およびその外郭団体が運営する館を主対象に、民家など住宅建築の所有状況を調査した結果、68館を確認した。この68館を対象に、①所有する民家等の概要、②活用状況、③維持管理についてアンケート調査を実施したところ48館から回答を得た。HP等から得た情報も加え、表1に示す68館109棟について検討する。

まず所有館は、歴史資料を収集する歴史博物館が31館と最多で、地域に特化した郷土博物館が26館、総合博物館が11館である。所有する住宅建築の種類は、民家61棟・商家11棟・近代住宅10棟・武家住宅9棟・旅館4棟で、民家が半数以上を占め、蔵や門などの付属建物も14棟と多い。

文化財指定・登録については、国重要文化財16棟、県指定12棟、市区町村指定41棟、国登録13棟、市区町村登録2棟で、文化財として保護されている例は77%に当たる。特に市区町村指定・登録が多い点は、地域の歴史を伝える上で重要な建造物として守られていることを示している。

(2) 展示形態

109棟の展示形態は、立地として博物館本館の敷地内(または隣接地)と敷地外に分けられ、さらに保存手法として現在地への移築と、現地での保存に分けられる。

敷地内に移築した例は39館61棟で、50棟が文化財に指定・登録され、うち20棟が市区町指定であって文化財保護の性格が強い。展示目的として、約半数が「地域の歴史を伝える」ことを挙げ、かつ複数棟所有する館が16館あるなど、地域の暮らしを標本的に伝えることを重視している。

敷地外に移築した例は10館13棟で、1棟を除き市区町文化財に指定されている。移築先は、那須塩原市那須野が原博物館〈旧津久井家住宅〉(栃木)の場合、

那須野が原開拓初の民間農場・旧三島農場事務所の跡地、目黒区めぐろ歴史資料館〈旧栗山家住宅主屋〉(東京)はすずめのお宿緑地公園内など、遺跡・史跡や公園内が10棟を占め、歴史的由緒や本来の立地に近い環境を重視したといえる。

敷地内での現地保存は15館15棟が該当する。これらは、野口英世記念館(福島)や原敬記念館(岩手)のように、著名文化人・政治家等の生家や自宅を現地で保存して記念館を設置する例が9館と多く、その人物の作品展示や事績の顕彰を目的とする。現在は伊能忠敬記念館の敷地外で保存される〈伊能忠敬旧宅〉(千葉)も、1961年の開館当初は旧宅内で展示を行っており、1997年に隣接地に記念館を新築して展示機能を移したもので、経緯は共通する。

敷地外で現地保存した例は18館20棟で、うち10棟が「当時の暮らし・地域の歴史を伝える」を展示目的とし、敷地内移築と共通した。

3 アンケートにみる保存・管理の実態と課題

(1) 保存目的

まず、アンケートから民家等の保存目的をみると、3種に大別できる(図2)。

第一に「地域の歴史への関心向上」であり、28棟と最多である。例として清瀬市郷土博物館〈旧森田家住宅〉(東京)は「昔の清瀬の農民の生活の再現や民俗行事の復活、継承の一端を担う」とし、さくら市ミュージアム〈瀧澤家住宅〉(栃木)は「市民、来館者に歴史的建築を公開することで郷土の歴史に関心をもってもらうため」と述べている。

第二に「後世への継承」で、23棟存在する。例と

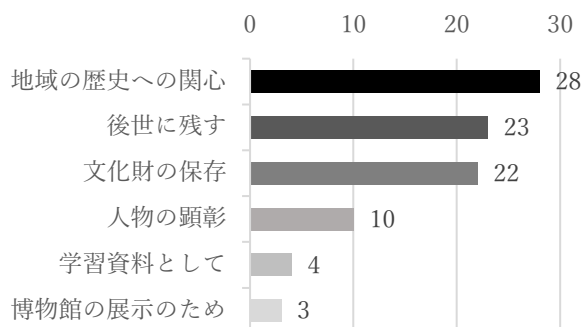


図2 保存目的(単位:棟)

して盛岡市中央公民館〈旧中村家住宅〉(岩手)は「盛岡に残る数少ない商家と伝統工芸について知ることができる貴重な建物を後世に伝えていく」とし、木更津市郷土博物館〈旧安西家住宅〉(千葉)は「記録保存以外に実物資料として一つでも未来へつなげる目的」と回答している。

第三に「人物の功績の継承」であり、10棟が該当する。前掲の野口英世記念館〈野口英世生家〉(福島)は「博士の生い立ちや当時の暮らしを感じてほしい」とし、東大和市立郷土資料館〈旧吉岡家住宅〉(東京)は「この屋敷で半世紀近くを過ごし、創作を重ねた日本画家吉岡堅二氏の重要な作品を生み出した空間である」ことを意義として挙げる。これら人物の事績を伝える点は、人の住まいである住宅建築ならではの意義といえる。

(2) 管理方法

まず日常的な維持管理は、「清掃」がほぼ全館、「外構の手入れ」が3館を除き全館で実施されている。定期的な点検も31館が実施するが、管理担当を常置するのは20館で半数以下である。防災訓練については26館が年1,2回程度実施している(図3)。

維持管理において、課題があると回答した館は40館で8割を超える(図4)。その理由として、「予算不足」が最多で、管理のための経常予算が「ある」と回答した館は46館中14館で3割に留まる(図5)。予算が「ない」と答えた16館のうち半数の7館は複数棟の所有館であり、奥会津博物館(福島)は「茅の葺替えを1棟実施したが、他の3棟も行わなければならない、予算化が大変」とし、同様に富士山かぐや姫ミュージ

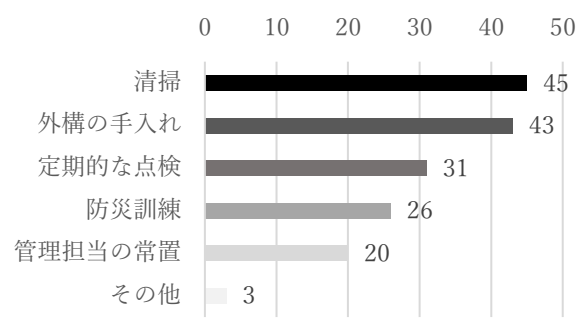


図3 維持管理の内容(単位:館)

アム(静岡)も、指定文化財を含めて9棟の維持管理を行っているが予算確保が難しく必要な措置がとれない場合があるとするなど、棟数が多いほど維持管理費が増大し、確保が厳しい現状が窺える。

予算の有無は、文化財指定・登録と全く連動せず、国重要文化財の〈旧馬場家住宅〉を所有する会津民俗館(福島)では、運営補助が全くないため、閉館または類似施設への譲渡を検討している。

もうひとつの課題として「修繕の必要性」が挙げられる。那須塩原市那須野が原博物館〈旧津久井家住宅〉(栃木)など茅の葺替えを必要とする4館中2館が茅の調達を困難とする。

一方、耐震補強については、実施済は74棟中9棟で2割を下回る(図6)。伊能忠敬記念館〈伊能忠敬旧宅〉(千葉)は2011年の東日本大震災以降、法令上必要な構造補強を追加した。一方、検討中は20棟、未実施は45棟で、予算不足が理由として圧倒的に多い。館林第二資料館〈田山花袋旧居〉(群馬)や那須塩原市那須野が原博物館〈旧津久井家住宅〉(栃木)は、耐震基準を満たさないことから内部への立入ができないことを課題としている。その一方、下諏訪町立諏訪湖博物館〈宿場街道資料館〉(長野)は歴史的風情が損な

われるため実施しないと回答しており、対応が分かれた。

4 アンケートにみる活用実態と課題

(1) 活用状況

次に、住宅建築の活用状況について検討する。

まず定期的な活用は、公開・見学が75棟中74棟で実施され、頻度もほぼ毎日が7割弱を占める(図7)。ただし、東大和市立郷土資料館〈旧吉岡家住宅兼アトリエ〉(東京)は年数回、那須塩原市那須野が原博物館〈旧津久井家住宅〉(栃木)は外部のみなど、限定的な公開方法も存在する。解説は51棟で実施され、方法として、佐渡博物館〈旧土屋家住宅〉(新潟)は解説パネルの設置、小坂町立総合博物館郷土館〈旧工藤家住宅〉(秋田)は申込制で受け入れる。他に北区飛鳥山博物館〈旧松澤家住宅〉(東京)は月1回程度工作・生活の体験事業を実施、木更津市郷土博物館〈旧安西家住宅〉(千葉)は月2回程度小学3年生の昔の体験学習を実施している。

府中市郷土の森博物館〈旧越智家住宅〉(東京)では、ボランティアによる「森のおはなし会」を博物館開館以来月1回行っており、ボランティアへのヒア

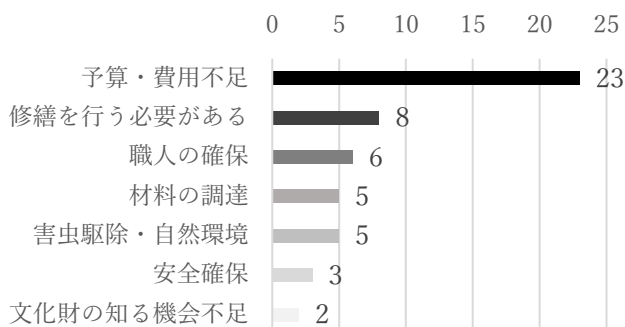


図4 維持管理の課題(単位:館)

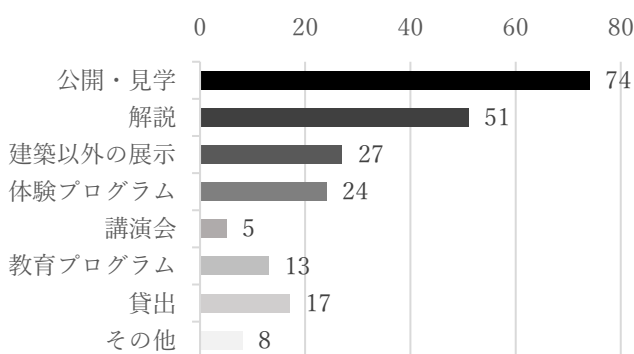


図7 定期活用の内容(単位:棟)

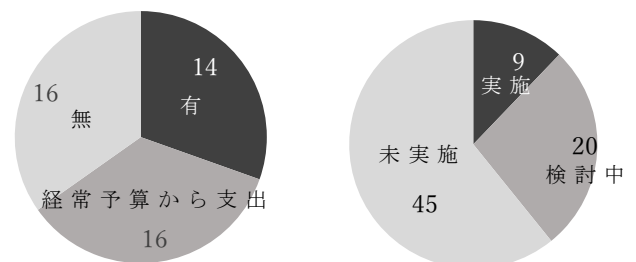


図5 保存管理の予算 図6 耐震補強の実施
(単位:館) (単位:棟)



図8 府中市郷土の森博物館
旧越智家住宅「森のおはなし会」

リングでは田舎らしい建物に親しんでくれること、昔の雰囲気があり臨場感があることがメリットという(図8)。

一方、不定期の活用は35館で実施され、回答した6割に当たる。体験と教育への活用が共に9館で最多で、岩手県立博物館〈旧佐々木家住宅〉(岩手)は昔の遊び体験、板橋区立郷土資料館〈旧田中家住宅〉(東京)は火起こし体験、奥会津博物館〈旧大竹家住宅〉(福島)は小学生の囲炉裏体験、さくら市ミュージアム〈瀧澤家住宅〉(茨城)は繭玉人形作りや十二単の着付体験などの実施例がある。他に公開・見学、解説が8館、建築以外の展示が5館などで、例として、岩手県立博物館〈旧佐々木家住宅〉(岩手)では修理工事の際の現場見学、木曽福島郷土館〈旧開田村古民家〉(長野)は町内小学4年生や看護専門学校など対象を絞った現場見学会を実施し、富士山かぐや姫ミュージアム〈旧稲垣家住宅〉(静岡)は市内在住の出演者による文化財と融合した音楽会を実施している。

今後加えたい企画・活用については22館から回答があり、8館が「生活・食事などの体験活用」を挙げている。茨城県立歴史館〈旧茂木家住宅〉(茨城)や小坂町立総合博物館郷土館〈旧工藤家住宅〉(秋田)は古民家宿泊体験、十和田湖民俗資料館〈旧笠石家住宅〉(青森)は観光地に近い立地から観光客を対象とした事業を模索し、他施設との連携事業や民俗イベントなども挙げられた。

(2) 運営状況

運営状況をみると、活用に関与するボランティアの有無は、18館が「有り」、33館が「無し」で、4割

で存在する。ボランティアの役割は、見学の対応が9館、体験プログラムの指導が5館などが挙げられる(図9)。ボランティアの人数は、6棟を所有する真田宝物館(長野)が約100人と最大で、51人以上が4館ある一方、10人以下も3館あるなど差が大きい。また小坂町立総合博物館郷土館〈旧工藤家住宅〉(秋田)では、58人のボランティアが登録しているものの、実際に活動している人は17人と少なく、解説員の育成を課題とし、北区飛鳥山博物館〈旧松澤家住宅〉(東京)は会員の高齢化、新規加入者の減少が課題となるなど、人員確保に苦慮している。

一方、市民団体、自治会、近隣の商店街等と連携・協力した事業は23館で実施例がある(図10)。講演やコンサート、昔話語りなど「イベントの協力」が10館、「体験事業の協力」が3館などであり、府中市郷土の森博物館〈旧越智家住宅〉(東京)ではボランティアによる「森のおはなし会」を博物館開館以来月1回実施している。他に、館林第二資料館〈田山花袋旧居〉(群馬)は市内のコーラスグループと協力したコンサートイベント、矢巾町歴史民俗資料館〈佐々木家曲家〉(岩手)では地元の農協関連団体が年1回障子の張り替えを実施している。

(3) 活用の効果と課題

活用の効果は44館から回答があり、その内容は3点に集約できる(図11)。

第一に、「実物による体感・体験」が20館と最多である。那須塩原市那須野が原博物館〈旧津久井家住宅〉(栃木)は「当時の生活を空間的に感じることが出来る」、盛岡市中央公民館〈旧南部家別邸〉(岩手)は

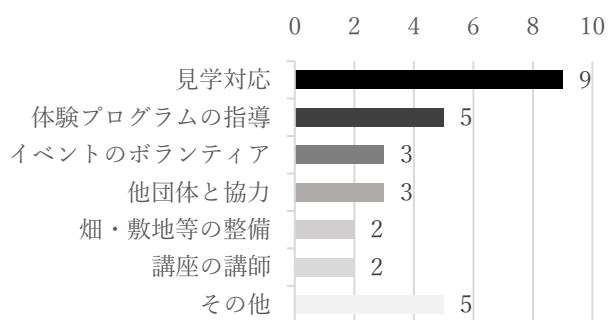


図9 ボランティアの役割(単位:館)

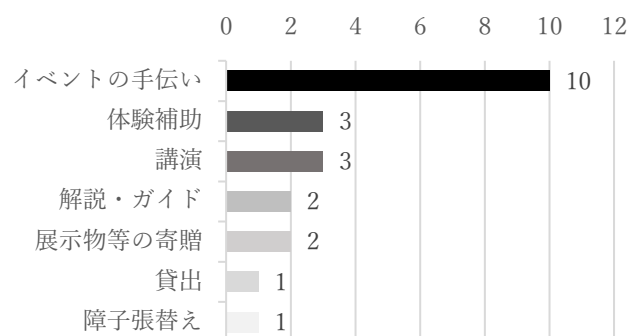


図10 地域との連携事業(単位:館)

「一次資料として当時の建築方法、使用した材料などを知ることができ、来館者に当時の雰囲気や直接伝えることができる」と回答するなど、実際の内部空間を体験することをメリットとして挙げている。

第二に、「研究・教育的資料」が7館あり、原敬記念館〈原敬生家〉(岩手)は原敬ゆかりの建造物として人物理解と研究のために公開するとし、小中学校対象の体験学習を定期的実施する館も多い。

第三に「地域文化財に親しむ」が挙げられる。例として藤枝市郷土博物館〈長屋門〉(静岡)は「地域の文化財を知り、触れてもらう機会の提供」、すみだ郷土文化資料館〈旧小山家住宅〉は「大正初期の建物を文化財として、保存しながら活用することにより、区民の文化に親しむ心を育むことができる」などの6館から回答があった。

一方、活用の課題は、維持管理と同様「予算不足」が大きい(図12)。活用に特化した予算を持つのは北区飛鳥山博物館(東京)、野口英世記念館(福島)など4館のみで、15館は経常予算から支出、28館は予算無しとする(図13)。同様に「人員不足」を課題とする館も5館存在し、人件費不足等により活用の幅が狭まる可能性があり、岩手県立博物館〈旧佐々木家住宅〉(岩手)は「体験プログラム等を行う際、安全面の確保のため保険加入、予算などが必要」と指摘する。

また、歴史的建造物の保護も重要であり、さくら市ミュージアム〈瀧澤家住宅〉(茨城)は「活用すればするほど、見えるところにも見えないところにもダメージが蓄積される」ことを危惧し、富士山かぐや姫ミュージアム(静岡)では「建物を第一に考えながら活用すること」を挙げるなど、活用と保存のバランスを探ることが今後の重要な課題といえる。

5 「伝えよう！旧和田家住宅」の効果と課題

(1) 事業概要

旧和田家住宅は、茅ヶ崎市文化資料館が管理する民家で、安政2年(1855)に茅ヶ崎市萩園に建てられ、昭和60年(1985)に現在地へ移築された。桁行11間・梁間5間半と大規模であること、良材を用いた質の高い造作であること、改造が少なく、よく幕末民家の特徴を残していること、および普請帳から建設経緯が明らかなことなどが評価され、茅ヶ崎市有形文化財に指定されている。令和4年度中に開館が予定されている茅ヶ崎市歴史文化交流館はこの旧和田家住宅に近接して建つことから、茅ヶ崎市が培ってきた

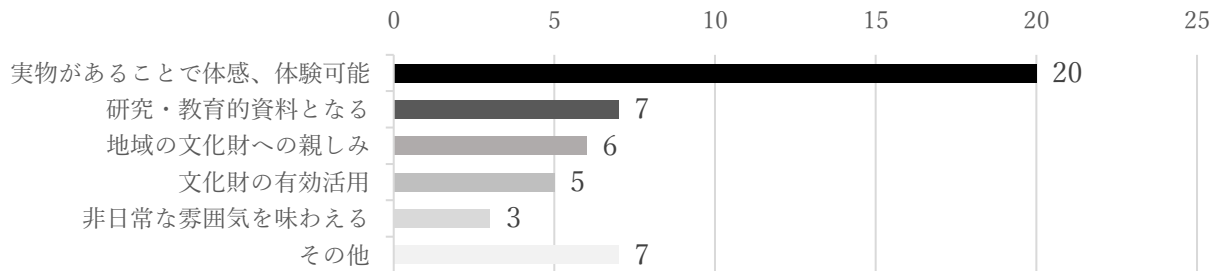


図11 活用のメリット(単位:館)

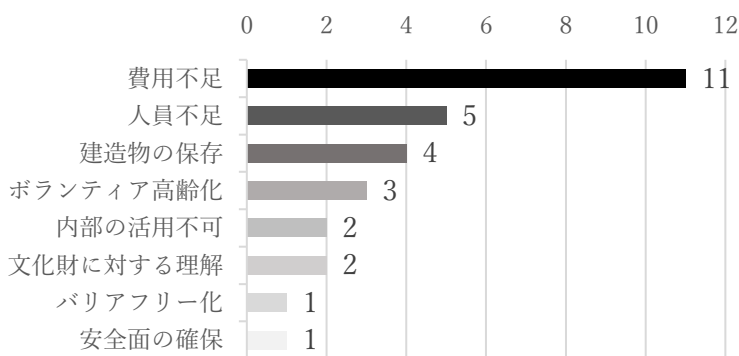


図12 活用の課題(単位:館)

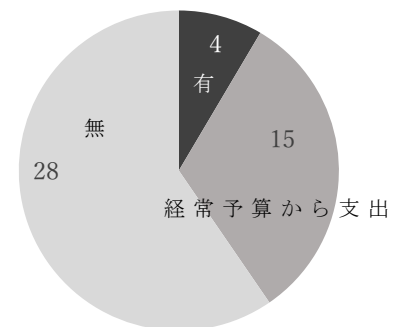


図13 予算の有無(単位:館)

歴史・文化を発信する拠点として期待されている。

「伝えよう！旧和田家住宅」は、北部丘陵地域の魅力向上に向けた「下寺尾・堤周辺地区まち起こし事業」の一環として、茅ヶ崎市景観みどり課・茅ヶ崎市教育委員会社会教育課が実施した企画であり、広告制作会社(株)サン・アドおよび東海大学建築学科小沢研究室が協力している。

このまち起こし事業は、小出小学校5年生を対象としている。これは、貴重な文化財とその周辺も含めた魅力を次世代が享受し続けるためには、その価値を広く伝えていく必要があり、その役割をこれからの地域を支える子どもたちに担ってほしいという茅ヶ崎市側の考えによるものである。令和元年度には「つくろう！小出のシンボルマーク」と題して地域の魅力を再発見しながら、地区を象徴するマークを作成するプログラムが実施された。本年度は、「伝えよう！旧和田家住宅」と題し、旧和田家について学んだ上で、次世代に地域資源の魅力や大切さを伝えるポスターを作成するプログラムである。

「伝えよう！旧和田家住宅」は全5回のプログラムで、第1弾「旧和田家住宅を知ろう！」(9月18日)、第2弾「旧和田家住宅に触れよう！」(10月27日)、第3弾「旧和田家住宅をプロデュースしよう！」(12月8日)、第4弾「作業を進めよう！」(1月27日)、第5弾「発表しよう！」(3月11日)で構成される。第1弾では、まず学校内で市職員がまち起こし事業の目的等を説明、東海大学・小沢が旧和田家住宅の建築的な特徴を解説した。

これを踏まえ、第2弾の「旧和田家住宅に触れよう！」では、小出小学校5年生2クラス64名が実際に旧和田家住宅を訪れ、約2時間かけて見学・体験を行った。旧和田家住宅は、令和2年度に耐震補強と屋根の茅葺きの修理工事を実施しており、建物の材料や技術、それに関わる職人の仕事を知る良い機会でもある。具体的には、旧和田家住宅の内外に、建物外観・内部の見学と解説、修理工事に関わる大工(内田工務店)・屋根葺(熊谷産業)・左官(磯部聚楽工業所)の6ヶ所のブースを設ける(図14)。児童は、1クラス6班に分かれてローテーションで各ブースを回り、取材・体験を行う。所要時間は1ブース20分で、う

ち5分間が質問時間に当てられている。

当日の様子は図15~20の通りで、全体の所要時間の長さや休憩が無かったことから、途中で座り込むなど集中力が続かない児童もみられた。しかし、全体として児童からの質問も多く、旧和田家住宅に興味を持ち、自分から知ろうとする姿勢が表れていた。

(2) 事業の効果

第2弾に参加した小出小学校教員・児童・市職員にヒアリングを行なった結果、旧和田家住宅を活用する効果として、次の3点が挙げられる。

まず「体験」するからこそ記憶に残る」という点である。教員からは「体験したりする経験はすごく大事」「自分たちの手で表現していく体験ができるので記憶にもすごく残る」との意見があり、児童からは左官仕事や鉋がけなど「体験するものが楽しかった」という感想が多く出された。本物を見ること、体験をすることは記憶に残る効果に繋がる。事実、第3弾以降に出されたポスター案では、「伝えよう職人の技術」「みんなも知ろう、江戸時代の大工の工夫」など職人の技術への注目も多い。市職員は「子供たちが大きくなって家族を持ったときに小出の良さを継承してもらいたい」とし、児童の記憶に残ることが将来継承していくことに繋がると期待している。

同時に、体験することで「民家に対する見方が変わる」という点が挙げられる。教員からは実際に見学することで、「自分たちから知っていこうという気持ちになっている」という感想が出された。第1弾の授業時には、旧和田家住宅を知らなかった児童、行ったことはあるが興味をもっていなかった児童も多かったが、第2弾当日の質問・疑問点からは建物への関心を感じられ、またポスター案でも防犯用の工夫であるガラガラ戸(戸車付きの板戸)や囲炉裏・欄間・土壁などの民家ならではの要素、木材の「適材適所」など、授業や第2弾で解説・体験した内容を扱うテーマが多くみられ、一般的な「民家」のイメージ以上の理解の深さを感じられる。実際に見て触れることで旧和田家住宅が身近な存在となり、漠然とした存在ではなく自分なりの関心を持って見るができるようになっ

次に、「地域の魅力を理解し、広める契機」としての意義が挙げられる。教員からは「茅ヶ崎に来てもらえるような活動があれば、いろんな出会いがあると思う」、市職員からも「市内の人だけでなく、市外の人も対象に古民家などの魅力を知ってもらう機会が作れたらいい」という意見があり、民家の保存活用が「地域の魅力発信」の契機になると期待されている。

その一方、課題としては、危険箇所の把握と参加者の安全確保が挙げられる。民家には敷居・框などの段差が多く、特に工事中であったことから仮床の部分もあって、転倒する児童もみられた。

また、児童は大人と異なり、建具の開閉などで力加減が難しいため、破損が危惧される。民家を活用した体験プログラムでは、建造物の保存に配慮した場所や方法の選択が重要といえる。

6 おわりに

「伝えよう！旧和田家住宅」では、実際の民家を体験するからこそ児童の記憶に残り、地域文化財への理解と愛着を深める効果が実感できた。博物館に対するアンケート調査でも、「実物による体感・体験」が住宅建築の展示の最も重要な効果と認識されていた。

その一方、耐震性の問題から内部への立入ができない例、人員不足により安全面が確保できず体験事業が実施できない例も散見し、「実物による体感・体験」を提供できない館も存在する。不特定多数が利用する博物館として、危険箇所の把握と参加者の安全確保は不可欠だが、個々の建築の特徴や価値を踏まえて企画や実施方法を選択することが重要といえる。

*1 東海大学工学部建築学科・学生

*2 東海大学工学部建築学科・教授

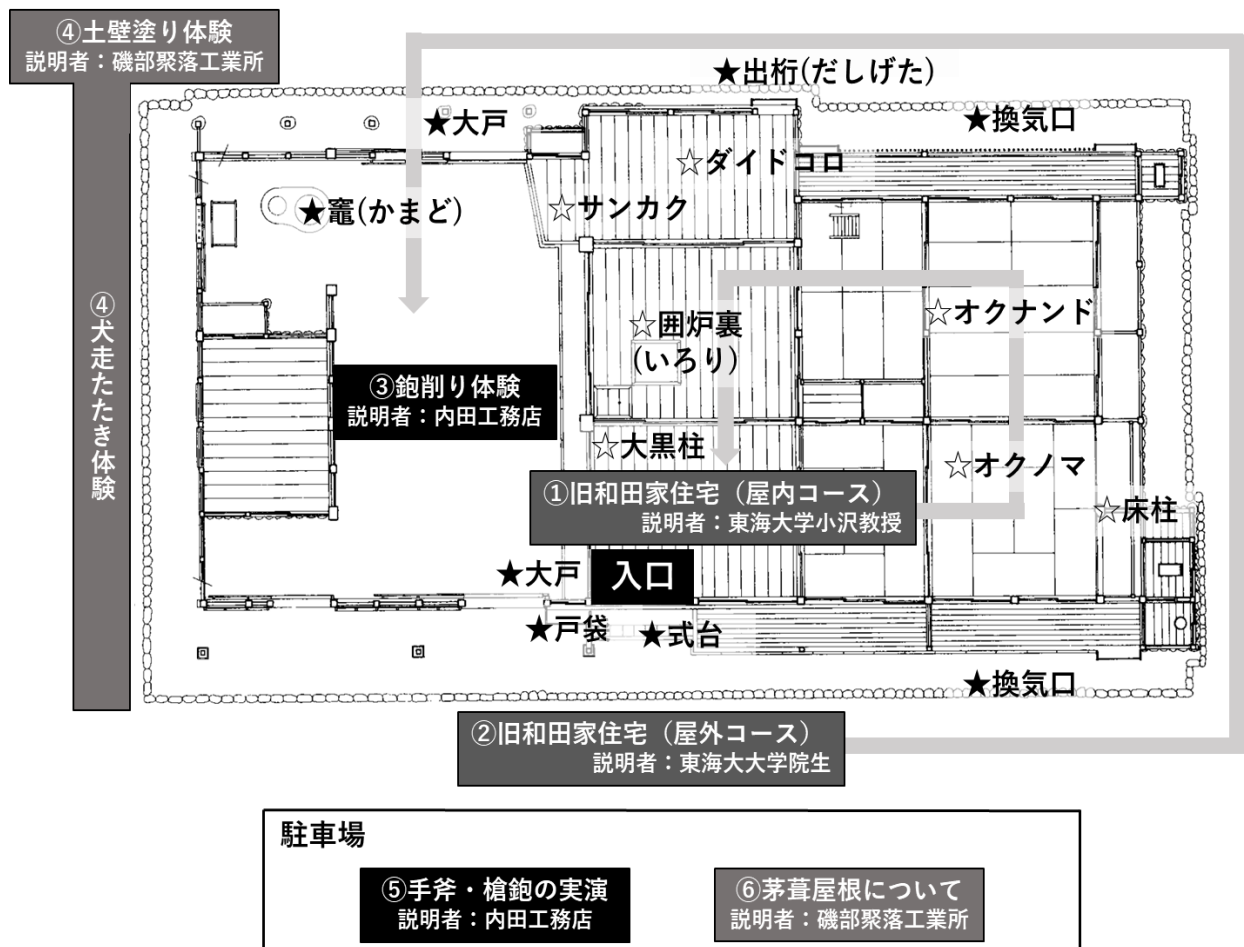


図 14 「旧和田家住宅に触れよう！」配置図



図 15 ①屋内の説明



図 16 ②屋外の説明



図 17 ③鉋削り体験



図 18 ④土壁塗り体験



図 19 ⑤手斧・槍鉋実演



図 20 ⑥茅葺屋根の説明

表1 東日本地域の博物館が所有する住宅建築 一覧

No.	所蔵館の概要			住宅建築の概要			
	館名	所在地	開館	建築名称	建築年	設置形態	設置経緯
1	茨城県立歴史館	茨城県水戸市	1974年	旧茂木家住宅	18世紀前半	敷地内	移築
2	小美玉市玉里史料館	茨城県小美玉市		旧小松家住宅	1700年代末	隣接地	移築
3	古河歴史博物館	茨城県古河市	1990年	鷹見泉石記念館	1633年	隣接地	現地
4	さくら市ミュージアムー荒井寛方記念館	栃木県さくら市	1993年	瀧澤家住宅	1900年	敷地外	現地
5	さくら市ミュージアムー荒井寛方記念館	栃木県さくら市	1993年	長屋門	1833年	敷地内	移築
6	さくら市ミュージアムー荒井寛方記念館	栃木県さくら市	1993年	板倉	明治中期	敷地内	移築
7	那須塩原市那須野が原博物館	栃木県那須塩原市	2004年	旧津久井家住宅	1856年	敷地外	移築
8	館林市立資料館	群馬県館林市	1981年	田山花袋旧居	江戸時代	敷地内	移築
9	三芳町立歴史民俗資料館	埼玉県入間郡三芳町	1988年	旧島田家住宅	1804～1829年	敷地外	移築
10	三芳町立歴史民俗資料館	埼玉県入間郡三芳町	1988年	旧池上家住宅	明治初期	敷地内	移築
11	伊能忠敬記念館	千葉県香取市		伊能忠敬旧宅	1793年	敷地外	現地
12	浦安市郷土博物館	千葉県浦安市	1980年	旧本澤家住宅	1926年	敷地内	移築
13	浦安市郷土博物館	千葉県浦安市	1980年	旧吉田家貸家住宅	明治末期	敷地内	移築
14	浦安市郷土博物館	千葉県浦安市	1980年	旧太田家住宅	1905年	敷地内	移築
15	浦安市郷土博物館	千葉県浦安市	1980年	旧内田喜一氏所有三軒長屋	19世紀前半	敷地内	移築
16	浦安市郷土博物館	千葉県浦安市	1980年	旧大塚家住宅	江戸末期	敷地外	現地
17	浦安市郷土博物館	千葉県浦安市	1980年	旧宇田川家住宅	1872年	敷地外	現地
18	木更津市郷土博物館 金のすず	千葉県木更津市	2008年	旧安西家住宅	江戸中期	隣接地	移築
19	袖ヶ浦市郷土博物館	千葉県袖ヶ浦市	1982年	旧進藤家住宅	1847年	隣接地	移築
20	板橋区立郷土資料館	東京都板橋区	1972年	旧田中家住宅	江戸末～明治初期	敷地内	移築
21	青梅市郷土博物館	東京都青梅市	1974年	旧宮崎家住宅	19世紀初期	隣接地	移築
22	杉並区立郷土博物館	東京都杉並区大	1989年	旧篠崎家住宅主屋	1789～1800年	敷地内	移築
23	杉並区立郷土博物館	東京都杉並区大	1989年	旧井口家住宅長屋門	1804～1829年	敷地内	移築
24	練馬区立石神井公園ふるさと文化会館	東京都練馬区	2010年	旧内田家住宅	明治20年代初期	隣接地	移築
25	羽村市郷土博物館	東京都羽村市	1985年	旧下田家住宅	1847年	敷地内	移築
26	羽村市郷土博物館	東京都羽村市	1985年	旧田中家住宅長屋門	不明	敷地内	移築
27	府中市郷土の森博物館	東京都府中市		旧田中家住宅	江戸後期	敷地内	移築
28	府中市郷土の森博物館	東京都府中市		旧島田家住宅	1888年	敷地内	移築
29	府中市郷土の森博物館	東京都府中市		旧河内家住宅	江戸後期	敷地内	移築
30	府中市郷土の森博物館	東京都府中市		旧越智家住宅	江戸後期	敷地内	移築
31	北区飛鳥山博物館	東京都北区		旧松澤家住宅	1844年	敷地外	移築
32	東大和市立郷土博物館	東京都東大和市		旧岡家住宅主屋(他有)	明治前～中期	敷地外	現地
33	目黒区めぐろ歴史資料館	東京都目黒区		旧栗山家主屋(他有)	江戸中期	敷地外	移築
34	五日市郷土館	東京都あきる野市		旧市倉家住宅	江戸末期	敷地内	移築
35	すみだ郷土文化資料館	東京都墨田区	1998年	旧小山家住宅	1917年	敷地外	現地
36	福生市郷土資料室	東京都福生市	1980年	旧ヤマジュウ田村家住宅	1902年	敷地外	現地
37	清瀬市郷土博物館	東京都清瀬市	1985年	旧森田家住宅	江戸中～後期	敷地外	移築
38	大磯町郷土資料館	神奈川県中郡大磯町	1988年	旧吉田茂郎	1945～1965年	隣接地	現地
39	相模原市立博物館	神奈川県相模原市	1955年	吉野宿ふじや	1897年	敷地外	現地
40	茅ヶ崎市文化資料館	神奈川県茅ヶ崎市	1971年	旧三橋家住宅	1828年	敷地外	移築
41	茅ヶ崎市文化資料館	神奈川県茅ヶ崎市	1971年	旧和田家住宅	1862年	敷地外	移築
42	茅ヶ崎市文化資料館	神奈川県茅ヶ崎市	1971年	旧藤間家住宅主屋	1932年	敷地外	現地
43	厚木市郷土資料館	神奈川県厚木市	2019年	古民家岸邸	1891年	敷地外	現地
44	八戸市南郷歴史民俗資料館	青森県八戸市		古民家	明治中期	敷地内	移築
45	石川啄木記念館	岩手県盛岡市	1986年	旧斎藤家住宅	不明	敷地内	移築
46	岩手県立博物館	岩手県盛岡市	1980年	旧佐々木家住宅	1820年頃	敷地内	移築
47	岩手県立博物館	岩手県盛岡市	1980年	旧藤野家住宅	1820年頃	敷地内	移築
48	原敬記念館	岩手県盛岡市	1958年	原敬生家	1850年	敷地内	現地
49	原敬記念館	岩手県盛岡市	1958年	倉	1914年	敷地内	移築
50	原敬記念館	岩手県盛岡市	1958年	腰越別荘書斎部分	1916年	敷地内	移築
51	盛岡市中央公民館	岩手県盛岡市		旧南部家別邸	1908年	敷地内	現地
52	盛岡市中央公民館	岩手県盛岡市		旧中村家住宅	1861年	敷地内	移築
53	矢巾町歴史民俗資料館	岩手県紫波郡矢巾町	1983年	佐々木家曲家	1863年	敷地内	移築
54	東北歴史博物館	宮城県多賀城市	1999年	今野家住宅	1769年	敷地内	移築
55	秋田県立博物館	秋田県秋田市	2004年	旧奈良家住宅	1751～1763年	敷地外	現地
56	小坂町立総合博物館郷土館	秋田県鹿角郡小坂町		旧工藤家住宅	1885年	敷地外	現地
57	斎藤茂吉記念館	山形県上山市	1968年	箱根山荘の勉強部屋 (斎藤家別荘の離れ)	1939年	敷地内	移築
58	致道博物館	山形県鶴岡市	1950年	旧渋谷家住宅	1822年	敷地内	移築
59	致道博物館	山形県鶴岡市	1950年	御隠殿	幕末	敷地内	現地
60	野口英世記念館	福島県耶麻郡猪苗代町	1939年	野口英世生家	1823年	敷地内	現地
61	会津民俗館	福島県耶麻郡猪苗代町		旧佐々木家住宅	1773年	敷地内	移築
62	会津民俗館	福島県耶麻郡猪苗代町		旧馬場家住宅	不明	敷地内	移築
63	十和田湖民俗資料館	青森県上北郡十和田湖町		旧笠石家住宅	江戸時代後期	敷地内	移築
64	雫石町歴史民俗資料館	岩手県岩手郡雫石町	1974年	南部曲り屋	明治頃	敷地内	移築

No.	所蔵館の概要			住宅建築の概要			
	館名	所在地	開館	建築名称	建築年	設置形態	設置経緯
65	武家住宅資料館	岩手県奥州市		内田家住宅	江戸後期	敷地内	現地
66	武家住宅資料館	岩手県奥州市		後藤新平旧宅	18世紀中頃	敷地外	現地
67	登米市歴史博物館	宮城県登米市迫町		旧亘理邸	1892年	敷地内	現地
68	秋田県立農業科学館	秋田県大曲市		旧伊藤家家屋	1958～1961年	敷地内	移築
69	奥会津博物館	福島県南会津郡南会津町		旧大竹家住宅	1801年	敷地内	移築
70	奥会津博物館	福島県南会津郡南会津町		旧杉原家住宅	18世紀後半	敷地内	移築
71	奥会津博物館	福島県南会津郡南会津町		旧猪股家住宅	18世紀前半	敷地内	移築
72	奥会津博物館	福島県南会津郡南会津町		旧山王茶屋	1869年	敷地内	移築
73	ふじさんミュージアム	山梨県富士吉田市	2015年(新)	御師旧外川家住宅	1768年	敷地外	現地
74	小淵沢郷土資料館	山梨県北杜市		旧平田家住宅	江戸時代中期	隣接地	移築
75	島田市博物館	静岡県島田市	2000年	旧桜井邸	1890年	隣接地	現地
76	浜松市博物館	静岡県浜松市		旧高山家住宅	1854～1860年頃	敷地内	移築
77	藤枝市郷土博物館	静岡県藤枝市	1987年	長屋門	1858年	敷地外	移築
78	藤枝市郷土博物館	静岡県藤枝市	1987年	茶室	江戸後期	敷地外	移築
79	藤枝市郷土博物館	静岡県藤枝市	1987年	仲間部屋・厩	江戸後期	敷地外	移築
80	富士山かくや姫ミュージアム	静岡県富士市	2016年(新)	樋代官長屋門	江戸時代末期	敷地内	移築
81	富士山かくや姫ミュージアム	静岡県富士市	2016年(新)	旧松永家住宅	1857年	敷地内	移築
82	富士山かくや姫ミュージアム	静岡県富士市	2016年(新)	樋代官植松家住宅	江戸末期	敷地内	移築
83	富士山かくや姫ミュージアム	静岡県富士市	2016年(新)	旧稲垣家住宅	1804年	敷地内	移築
84	富士山かくや姫ミュージアム	静岡県富士市	2016年(新)	稲葉家住宅	18世紀前期	隣接地	移築
85	富士山かくや姫ミュージアム	静岡県富士市	2016年(新)	小休本陣常盤家住宅	1956年	敷地外	現地
86	佐渡博物館	新潟県佐渡市	1957年	旧浅島家住宅	不明	敷地内	移築
87	佐渡博物館	新潟県佐渡市	1957年	旧土屋家住宅土蔵	不明	敷地内	移築
88	津南町歴史民俗資料館	新潟県中魚沼郡津南町		茅葺民家	不明	敷地内	現地
89	北方文化博物館	新潟県新潟市	1946年	伊藤家住宅	1887年	敷地内	現地
90	北方文化博物館	新潟県新潟市	1946年	刈羽民家	江戸後期	敷地内	移築
91	飯田市美術博物館	長野県飯田市	1989年	柳田國男館	1927年	敷地内	移築
92	歴史公園信州高山一茶ゆかりの里	長野県上高井郡高山村	2015年	一茶逗留の離れ家	18世紀～19世紀初	敷地内	移築
93	軽井沢町歴史民俗資料館	長野県北佐久郡軽井沢町		旧近衛文麿別荘	大正時代	敷地外	移築
94	下諏訪町立諏訪湖博物館	長野県諏訪郡下諏訪町		宿場街道資料館	1877年	敷地外	現地
95	駒ヶ根市郷土館	長野県駒ヶ根市	1971年	旧竹村家住宅	江戸時代中期	敷地内	移築
96	真田宝物館	長野県長野市	1966年	真田邸	1864年	隣接地	現地
97	真田宝物館	長野県長野市	1966年	旧横田家住宅	19世紀前半～中頃	敷地外	現地
98	真田宝物館	長野県長野市	1966年	旧白井家表門	1846年	敷地外	移築
99	真田宝物館	長野県長野市	1966年	山寺常山邸	江戸末期	敷地外	現地
100	真田宝物館	長野県長野市	1966年	樋口家住宅	江戸末期	敷地外	現地
101	真田宝物館	長野県長野市	1966年	旧前島家住宅	1759年	敷地外	現地
102	南木曽町博物館	長野県木曽郡南木曽町	1995年	脇本陣 奥谷	1977年	敷地内	現地
103	長野市立博物館	長野県長野市	1981年	門前商家	1847年	敷地外	移築
104	軽井沢高原文庫	長野県北佐久郡軽井沢町	1985年	有島武郎別荘（浄月庵）	明治末～大正初	敷地内	移築
105	軽井沢高原文庫	長野県北佐久郡軽井沢町	1985年	野上弥生子書斎	1933年	敷地内	移築
106	軽井沢高原文庫	長野県北佐久郡軽井沢町	1985年	堀辰雄山荘	1918年頃	敷地内	移築
107	木曽福島郷土館	長野県木曽町		開田高原の農家	1680年	敷地内	移築
108	窪田空穂記念館	長野県松本市	1993年	窪田空穂の生家	1875年	隣接地	現地
109	高井鴻山記念館	長野県小布施町		高井鴻山書斎 脩然楼	1795～1803年	敷地内	現地